

## 神戸の歴史を学ぶ

# 中央区歴史トリップ！-中世・近世-

姫路獨協大学副学長・神戸深江生活文化史料館副館長 道谷 卓

### ■中世 - 『平家物語』生田の森の戦い、『太平記』湊川の戦いの舞台となった中央区 -

#### ①平氏政権

- ・ 1156 年保元の乱、1159 年平治の乱を経て平清盛が政権を握る
- ・ 平氏政権の二重性格
  1. 古代的性格…外戚利用（安徳天皇）、一族が高位高官に昇る（平清盛は 1167 年に従一位太政大臣になる）、京都六波羅に本拠を置く
  2. 中世的性格…日宋貿易（大輪田泊を貿易の根拠地とする）  
承安年間（1171～4 年）に大輪田泊を修築。  
→築島（経ヶ島）⇒塩樋山を削り、築島建設の計画。松王丸にからむ人柱伝説（来迎寺）。
- ・ 平清盛→福原荘（中央区西部から兵庫区の平野）を好む。

#### ②源平の争乱 - ノ谷戦い・生田の森の戦い -

- ・ 平清盛は太政大臣になった頃、福原に来る。これは都での反平氏勢力の勢いが強くなったためであり、ここは以前から、清盛が交通の要所と目をつけ、日宋貿易の拠点と考えていた土地で、平家の荘園（福原荘）があった地でもある。
- ・ 1180 年（治承 4）という年⇒日本が目まぐるしく動いた年。
  - \* 4 月、以仁王が平氏追討の令旨（源頼政挙兵）  
平清盛に福原遷都を決意させる。
  - \* 6 月 2 日、福原京遷都を断行⇒神戸が日本の首都になる。  
鴨長明『方丈記』の「都遷り」の段にその様子が描写されている
  - \* 6 月 3 日、安徳天皇が三種の神器とともに福原へ。  
天皇は平頼盛の山荘へ、父高倉上皇は平清盛の雪之御所へ
  - \* 8 月、源頼朝が伊豆で挙兵。
  - \* 9 月、源義仲が木曾で挙兵。
  - \* 11 月 12 日、安徳天皇は福原の新造皇居（福原京）へ移る。

cf) 和田京の新帝都計画

- \* 11月26日、京都へ還都。
- ・ 1181年閏2月、平清盛死亡。
- ・ 1183年7月25日、平家都落ち 源義仲の入京。  
平家は大宰府へ落ち延び勢力回復をねらい、その後四国の屋島へ移る。
- ・ 1184年1月21日、源義仲が近江で源範頼・義経に討たれる。
- ・ 1184年1月26日、平家軍は屋島を出発し福原へ。
- ・ 1184年2月7日、一ノ谷の戦い
  - @東：生田ノ森（大手の砦）に平知盛 V.S. 源範頼  
源氏方の梶原景季のえびらの梅、河原太郎・次郎兄弟の戦死と小野八幡神社
  - @西：一ノ谷（搦手の砦）に平忠度 V.S. 土肥実平  
平敦盛の「青葉の笛」（熊谷次郎直実）
  - @中央：平盛俊 源義経の「鶉越の坂落し」  
『平家物語』には「一ノ谷後の山、鶉越」とある。  
坂落しは、「鶉越」か「一ノ谷」か？
- ・ 1185年2月、屋島の戦い
- ・ 1185年3月、壇ノ浦の戦い 平家滅亡

### ③鎌倉時代

- ・ 1192年、源頼朝→征夷大將軍に任命（⇒鎌倉幕府）
- ・ 1207年、承元の法難で法然が讃岐に流罪→途中、脇浜の庄屋宅（富松右衛門）に立ち寄り、それがきっかけで庄屋は仏門に入る（法入）⇒阿弥陀寺（法然松）を開く
- ・ 荘園の形成
  - \* **福原荘**：もと平家の荘園、宇治川より西の奥平野にかけて立てられた、後に宇治川から生田川までに拡張（兵庫区から中央区の西半分が領域）。平家滅亡後、鎌倉幕府が没収（平家没官領）、宇治川の東だけに名が残る（宇治川より西は兵庫三箇荘（上・中・下）となる<兵庫上之荘：中央区の走水・坂本と兵庫区の荒田の三村から成る>）
  - \* **輪田荘**：もと兵庫区和田岬付近に立てられた、12世紀の初頭その辺りから宇治川に散在する田畠を加えていく
  - \* **葦屋荘**：旧葦合区一帯を荘域とする荘園、鎌倉時代に立てられたか（1348年に河内国安養寺の荘園になる）

#### ☆葦屋の由来は？

→この地が葦屋と呼ばれる区域に入っていた時期があり、この「葦」がよく似

た「葺」という字に誤写されたのではないか、のちに葺屋は「吹き屋根」に通ずるというので「葺合」に改められたという（葺合という名が史料に登場してくるのは早くとも近世）

#### ④南北朝の動乱

- ・ 1324 年、正中の変、1331 年、元弘の変で、後醍醐天皇は隠岐へ配流
  - \* 『増鏡』に、天皇は「雀の松原、**布引の滝**など御覧じやらるるも、…**生田の里**をば給はて…**湊川の宿**に著かせ給へる」とある
- ・ 1333 年 3 月 1 日、摂津摩耶山合戦で播磨の赤松則村（円心）が幕府軍を破る
  - 5 月 7 日、足利尊氏が京都六波羅探題を攻略
  - 5 月 20 日、新田義貞が鎌倉を攻略⇒鎌倉幕府滅亡
- ・ 後醍醐天皇の建武中興（建武新政、1334 に、足利尊氏が反旗を翻す→南北朝の動乱へ→1336（延元 1）年 1 月、新田義貞を討つため京に上った足利尊氏は、これに敗れ西へ逃れ、新田義貞・楠木正成軍と打出でも戦った（打出合戦）がこれにも負け、九州へと敗走した。
- ・ 湊川の戦い（1336 年 5 月 25 日）
  - \* 九州を出発した足利軍 水軍を尊氏が、陸軍を弟直義が従える
  - \* 5 月 25 日、兵庫湊川で後醍醐方（新田義貞・楠木正成）と足利方（足利尊氏・足利直義）の両軍が決戦
    - 新田義貞の本隊は大輪田泊の築島（経ヶ島）あたりに、また楠木正成の軍勢七百騎は会下山あたりに布陣
    - 勝負は足利軍の大勝、楠木正成は弟正季ら一族 28 人と湊川北の民家で自刃
    - 新田義貞は生田の森まで退却し、ついには京都に敗走

#### ⑤室町時代

- ・ 1337 年、赤松範資が摂津国守護となり、神戸一帯を支配
  - 再度山上に**多々部城**を築く（「城ヶ口」という地名）
- ・ 1338 年、足利尊氏→征夷大將軍（室町幕府）
- ・ 1350 年、観応の擾乱
  - 足利尊氏・高師直 V.S.足利直義
- ・ 1351 年 2 月 17 日、打出・御影浜の戦い
- ・ 1378 年、細川頼基が摂津国守護となり、中央区一帯を支配
- ・ 1467 年、応仁の乱 ⇒戦国時代へ
  - 將軍継嗣問題を機に、管領細川勝元（摂津守護）と山名持豊の対立

- ・群雄割拠の時代＝下剋上の時代：摂津国は下剋上で細川→三好長慶（細川家臣）→松永久秀（三好家臣）と権力交代

＊**滝山城**：1556 年に久秀が、主君三好長慶をこの城に迎えたということで突如として史上に登場

- ・戦国時代の末⇒郷村の形成

#### < 中央区の郷村 >

（山麓部）中尾、滝寺、熊内、北野、城ヶ口、中宮

（中間部）筒井、中、生田、生田宮、花熊、宇治野、坂本

（浜辺）脇浜、神戸、ニツ茶屋、走水

## ■近世－江戸時代・幕藩体制下での中央区の発展から、幕末・神戸開港と近代化のめばえ－

### ①織豊政権

- ・織田信長の時代

＊1560 年、桶狭間の戦い（今川義元を破り、天下統一の道を開く）

＊1568 年、摂津地方は織田信長の支配下に

- ・荒木村重と花熊城

＊信長配下の**荒木村重**（伊丹城本拠）が摂津守として中央区一帯を支配する

＊**花熊城**について

・1574 年、荒木村重が織田信長の命により、毛利氏と石山本願寺の海上交通を遮断するために築く（異説あり＝1568 年築城説）

・1578 年、**花熊城の戦い** ⇒ 荒木村重が信長に対して謀叛

※『信長公記』 天正 6（1578）年の霜月（11 月）の末、

信長が「滝川左近、惟住五郎左衛門兩人差遣わされ、…御敵荒木志摩守**鼻熊**に楯籠り候」とある

・1680 年 2 月、池田信輝・輝政親子が花熊城を落とし、落城後信輝は花熊城の材料を用い兵庫城を築城

・以後、中央区一帯は池田信輝の支配となる

- ・豊臣秀吉の時代

＊本能寺の変（1582 年）後、信長のあとをついで天下統一に着手

＊1582 年～、太閤検地 ⇒ 1583 年、中央区一帯はほぼ全域が豊臣領になる

＊1596 年、**慶長の大地震**（慶長元年閏 7 月 12 日）

近畿地方に大地震が起こり、伏見城の天守閣が大破

### ②江戸時代・幕藩体制の下で

- ・徳川家康の江戸幕府開幕

- \* 1600 年、関ヶ原の戦いで西軍（石田三成）をやぶる
  - 以後、片桐且元（茨木城主）が中央区一帯を支配
  - 1604 年以降、弟の片桐貞隆が管理
- \* 1603 年、家康が征夷大将軍に任じられ、江戸幕府を開く
- \* 1614、15 年、大坂夏の陣・冬の陣で豊臣氏を滅ぼす
- ・幕藩体制の下で
  - \* **尼崎藩**（譜代・5 万石・中央区を含む神戸市内では東灘から須磨までの大部分を支配）
    - 1617 年、戸田氏鉄（近江膳所より）
    - 1635 年、青山幸成（遠江掛川より）－幸利－幸督－幸秀
    - 1711 年、松平（桜井）忠喬（遠江掛川より 4 万石で）－忠名－忠告－忠宝－忠誨－忠学－忠興
  - ※ **青山幸利**の善政→坂本村**安養寺**に景仰碑
  - \* **楠公墓碑（大楠公墓碑）**の建立
    - ・湊川の戦いで自刃した楠木正成の塚といわれた小さな塚があった
    - ・青山幸利が五輪塔建立
    - ・五輪塔を管理していた広蔵寺の千巖が水戸藩主徳川光圀に楠公墓碑建立を請願
    - ・1692 年、徳川光圀が兵庫湊川に部下の佐々介三郎を派遣し、「**嗚呼忠臣楠子之墓**」を建立（同年 12 月 21 日） 「螭首亀趺」の形態、墓碑の裏には朱舜水による楠公賛美の文
  - \* 1769 年 2 月 13 日、「**明和六年の上ヶ知令**」－尼崎藩主・松平忠告の時
    - ・幕府は突如として、今津から兵庫に至る尼崎藩領や旗本領を天領として収公
    - ・尼崎藩が陣屋を置いて特別に施政していた西宮と兵庫津は、大坂町奉行所の支配下に移管
    - ・天領に収公された部分は大坂谷町代官所の支配下に（代官辻六郎左衛門）
    - ・天領となった村：小野新田・生田・中宮・走水・ニツ茶屋・神戸（以上尼崎藩）・筒井・脇浜（以上旗本領）・熊内（下総こが古河藩）・花熊（大和小泉藩）の村々
    - ※ 尼崎藩は、中・坂本・生田宮の三村のみとなる

### ③江戸時代の産業・交通

- ・産業
  - \* 新田開発：ニツ茶屋村の茶屋高浜伊左衛門の**高浜新田**、開発者不明の**小野浜新田**
  - \* 素麺・線香・油絞り・酒造など
  - \* 江戸後期、生田川流域に多くの水車小屋→酒米の精米、油絞り、小麦粉の製造
- ・海上交通→兵庫津が全国屈指の港として栄える
  - ⇒ ニツ茶屋村、神戸村：漕運業が盛ん
  - ※ 1676 年、ニツ茶屋村 10、神戸村 5 の廻船問屋

18 世紀にはこれらの問屋がニツ茶屋に 57 隻、神戸に 130 隻の廻船を有する

・陸上交通 = 西国街道

⇒古代・山陽道と呼ばれ、京と九州の大宰府を結ぶ主要幹線道路で、江戸時代になると西国（九州小倉）と畿内を結ぶ道としてにぎわう

\*西国街道（本街道と浜街道）

京から九州へ（畿内と西国を結ぶ交通路・参勤交代で整備）

芦屋の打出で二本に分かれ、三宮で合流し西へ

- ・本街道（大名行列が通る・今の国道 2 号あたり）
- ・浜街道（庶民の道・今の国道 43 号あたり）
- ・一里塚…西宮（宿）・津知・御影・脇浜・兵庫湊口（兵庫の宿）西代・境川・東垂水

※ニツ茶屋村⇒戦国末期に神戸村の村人が街道に二軒の茶屋を出したことにはじまるという